

10.21~22ストを開いて

成田支部組合員に聞く



日刊動労千葉

79.10.30

No. 261

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八・九・(公衆電話)七二〇七

「叩いてよかった」(32才・電運士)
「きびしくても第二波にむけてがんばる」(51才・機関士)

10・21～22の第一波闘争は、動労「本部」革マル反動集団のなりふりかまわぬ妨害とデマ宣伝を事実をもってうち破り、わが動労千葉の「三里塚・ジェット闘争」を中心とする路線の正しさを実践を通して明らかにし、政府・公団に大打撃を与え、備蓄ゼロ・廃港への展望を鮮明につき出した。10・20～21～22ストの連続決起は、動労千葉の団結を一層強化し、国鉄労働者をはじめ全国の戦闘的労働者の決起を生み出し、八〇年代労働運動の出発点をもつくり出した。日本労働運動・国鉄労働運動の右傾化、権力・当局と一体となった動労「本部」反動集団による敵対・スト破壊攻撃、森山提言である「処分凍結」スト封じこめ、そしてたによりも新組織結成後半年という、三重、四重の困難の中で敢然として闘い抜かれた10・22の十二時間ストライキの意義は、はかりしれない重要性をもっている。「日刊」編集部は、組合員の生の声を聞くため一〇月二五日成田支部をたずねた。成田運転区他区乗務員詰所に職種、年齢もまちまちの約十五～六人の仲間に集まっていたいて、ざっくばらんに感想をおききした。

「出来るんだ」という
自信と確信をもった！

司会……スト直前の「本部」反動集団によるスト破壊行為のこと、10・21～10・22ストを闘い抜いての感想など何でもいいですから、フランクに出していただませんか。

Aさん 32才電運士―ハンドルの握っている強さ―闘って良かったと思っている。今まで判らない面もあったが、ジェットのハンドルを握っているという事が力関係を決めた。われわれの実力行使は、強いんだというのが実感だなあ。

Bさん 46才構内運転係―佐倉も一緒に闘ってほしい―この闘いを通して支部の団結は強化されたと思う。残念なことは佐倉が今だに戦列に入っていないということだ、ぜひ一緒に闘ってほしい。

Cさん 34才電運士―何でもやれる自信をもった―直前までやってくずれるような不安もあった。でも二二日銚子でストに突入したことを聞いて「やったあ」と思った。これで何でも出来る自信と確信をもったよ。

Dさん 31才検修係―ものすごい意気込み―ストは今までもやってなれているが、今回のストは今までと違って意気込みがまったく違っていたな。

E君 20才構内整備係―今後もガンバル―入ったばかりで判らなくて、動労千葉が独立してやってゆけるのかと考えた。でも連日の「本部」オルグをみてきて、おれたちが闘っている実感と将来があることが判った。今後ががんばってやるつもりです。

Fさん 51才機関士―強まった支部の団結―闘ったなあ。支部がまとまって良かったという気持だ、今後処分を含めて弾圧があると思うし、

成田支部147名、団結して
ガンバルぞー!!
(スト突入前夜集会)



決起
「スト」を前
宣言に、関川
委員長・日
支部長

動労「本部」がどう出るか、第二波の闘いもきびしいと思うが、ここまできたらがんばるしかない。
「ストは絶対やめろ」と言う動労
「本部」についていたい何だい！

他区乗務員詰所での座談会をおえ、引き上げようとした編集部に声がかかる。

「おれよう、我孫子の『本部』オルグ頭に来たよ。九人できてなんだかんだといい、おまけにストやめろだって、ふざけた話だよなあ」これが成田支部の組合員の卒直な怒りの声であった。三七才の乗務員は続けて言う、一オルグ団の連中、おれをとりかこんで指さしやがって高飛車に出やがるもんだから、どう喝ならば、通用しないぞ、オルグも出来ない鉄道に入りたてのやつらにおれたちの闘いが判るか、でていってどなっちゃったよ」と……。

政府・公団・当局は十一月一日の増送を強行せんと狙っている。成田、佐倉の仲間を包みこみ、第一波を上まわる第二波闘争の爆発を待ちとていこう。